序文

本報告書は、広島大学平和科学研究センター篠田英朗准教授が、同センター客員研究員でもある立命館アジア太平洋大学の淵ノ上英樹准教授と共同で行っている平和構築の観点から見た日本の近代史研究プロジェクトの中間報告である。研究成果としては、まだ発展途上にあることは否めないが、いくつかの問題提起を含めた論点の提示を試みている。本研究プロジェクトは、日本の近代史は紛争後平和構築の実例であるという視点に立ち、様々な角度から紛争後国としての日本の近代史を検討し直そうとする。このような本研究プロジェクトの視座は、現代日本のあり方を問い直す作業の切迫性によって形成されている。本報告書所収の論文が示唆しているように、現代日本に連なる日本の近代史の発展の過程に関して、現代平和構築の実例との比較に関して、検討すべき課題は多い。本報告書の成果を基にしながら、研究プロジェクトとしては、さらに関連する諸問題の分析検討を行っていく予定である。